

令和2年度 学校評価報告書

学校名	三田市立八景中学校
-----	-----------

1 学校教育目標

自立して目標や夢の実現に挑戦する生徒の育成

2 今年度の学校重点目標

- | | |
|-------------------|---------------------|
| (1) 学力向上への取り組みの充実 | (2) 道徳、人権教育の充実 |
| (3) 授業改善の工夫 | (4) 生徒理解に基づく生徒指導 |
| (5) 安全・安心で開かれた学校 | (6) 学校園所及び家庭・地域との連携 |

3 総合的な自己評価

コロナ禍において活動に種々の制限がかかる中、生徒は規律正しい生活を送り、授業も集中して取り組むなど、全体的にみて概ね良好である。学校評価アンケート結果の「よくあてはまる」「おおむねあてはまる」を肯定的評価とした生徒による評価の割合は、すべての項目で8割以上であった。とりわけ、「生徒指導」「教育相談」「生徒会活動」「学校行事」「開かれた学校」の項目に関しては、95ポイントを超える高い評価となっている。これに慢心することなく、PDCAサイクルにもとづき、教育活動のさらなる改善・向上に努めたい。保護者による評価においては、おおむね高い肯定的評価を得た。特に「総合評価」が90ポイントを超えており、教職員にとってたいへん励みになるところである。しかし、「特色ある学校づくり」と「進路指導」の肯定的評価が低かった。地域貢献できる活動を工夫し、地域で見守り育ててもらえる関係を築き、キャリア教育を充実させていくことが本校の喫緊の課題である。

次年度は、信頼関係を基にした相談しやすい環境を構築し、聞くことと共感の姿勢で生徒理解に努める。組織的かつ計画的に保護者・地域と手を携えて、学校教育の充実を目指したい。

4 総合的な学校関係者評価

学校評価アンケートの結果は、生徒・保護者ともに肯定的評価の割合が高く、学校の取り組みが充実していると感じた。学校訪問したときも、生徒の活動はもちろんのこと教室や廊下の掲示物を見ても、生徒が楽しみながら生き生きと活動している様子がよくわかる。また、学校だよりや学校ホームページ等による情報発信が、積極的に行えている。今後は、ますます工夫を凝らして生徒の様子や学校の実態を知らせてもらいたい。

学習指導、進路指導、いじめ問題、危機管理については教職員が共通理解の上、組織として対応できる体制を充実させることが大事だ。また、地域に根ざした特色ある学校づくりを計画的に進めてほしい。

コミュニティスクールの取り組みを充実させることと学校支援ボランティアの活動を拡充させることが、学校のさらなる発展のためには必須である。学校・家庭・地域が連携する様子を、是非とも生徒たちに見てもらいたい。顔と顔を合わせ、話をすることで、八景中のすばらしさが生まれてくると考える。

5 評価結果

自己評価				学校関係者評価
分野・領域	評価項目(取組内容)	評価結果及び分析	改善の方策	学校関係者評価委員会の意見
学習指導	「分かる授業」への授業改善に努めるとともに、家庭学習習慣の定着を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・「生徒アンケート」では、授業や学習相談を肯定する回答が多いが、家庭学習の取り組みには課題を残す。 ・「ひょうごがんばりタイム」を基礎基本の習得に特化することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科でさらなる授業力の向上に努める。 ・基礎学力が定着するように授業改善と工夫を行う。 ・学習相談の在り方を工夫し、個に応じた対応や学習内容の精選を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いた環境の中、積極的な教育活動が行われている。基礎学力を向上させ、家庭学習の定着を図るために、これからも引き続き個に応じた支援が必要である。
	小中連携の充実を図り、規律ある学習・生活習慣づくりに取り組む。自己研鑽につとめ、専門性と実践的指導力を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・校区幼小中学校で連携を強化した。11年間を見通した「学びのすがた」と「育ちのすがた」を共有した。 ・ICTを活用した授業改善への意識改革を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小中連携の充実に向け、小中合同の研修会を計画し、交流できる教科を増やしていく。 ・三田市教育研修所との連携を密にし、GIGAスクールの取り組みを推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の興味関心を引き出し、探求心の向上につながる授業改善を望む。 ・コロナ禍において、今年度十分な取り組みができなかった授業参観を、感染対策を講じつつ工夫して実施してもらいたい。
生徒指導 いじめ防止	教育相談の充実を図り、生徒の共感的理解に基づいた生徒指導とともに、不登校生徒や発達への支援の充実に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・「生徒アンケート」「保護者アンケート」ともに、教育相談について肯定的評価の割合が高かった。 ・分散登校中から「こころのアンケート」を実施し、教育相談の充実を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・こころのアンケートから、生徒の声を早期に聞き取る。 ・特別支援教育をさらに充実させ、推進していく。 ・SCやSSW等の専門的見地からの意見を参考に、不登校生徒へ丁寧に関わっていく。 ・あいさつ運動を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・こころのアンケートや教育相談、日々の関わりや声かけにより、生徒理解に一層努めてもらいたい。 ・不登校生徒への対応には、専門機関との連携が必要である。様々な方面からのアプローチを試みてもらいたい。
	本校「いじめ防止対策基本方針」に基づき、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に向けて組織的に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・「生徒アンケート」「保護者アンケート」ともに、いじめ問題について肯定的評価の割合が高かった。 ・「いじめ対応チーム」で情報共有と方針決定を行い、組織的に対応し、早期に解決を図ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・こころのアンケートや教育相談を継続し、平時より生徒に向き合う時間を確保する。 ・生徒との信頼関係を基にした相談しやすい環境も構築をめざし、聞くことと共感の姿勢を心がけて関わっていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃の生徒との関わりを何よりも大切にしたい。 ・アンケートを活用し、教育相談週間を継続することにより、いじめの未然防止、早期発見・解決に努めてもらいたい。

教職員の 資質向上	特別支援教育の視点を生かした、すべての生徒に分かりやすい学習指導の工夫、授業改善に取り組む。	・誰もが学びやすい環境づくりについての共通理解を図り、授業のユニバーサルデザイン化をめざした。	・授業改善のみならず、配布物や生活面におけるサポートも含めて、すべての生徒にとって分かりやすい指導を心がける。	・タブレットの導入にあわせて、視覚的な支援をこれまで以上に取り組んでほしい。
	校内研修体制を充実させ、子どもを中心に据えた研究活動を推進する。	・研究推進委員会を定例化し、生徒につけたい力を検討して、組織的に取り組むことができた。	・小中連携を充実させて、中学校卒業時に身につけさせたい力を共通認識しつつ研究活動を推進する。	・生徒の実態把握を行うことが大切だと感じる。PDCAサイクルに基づいて推進してもらいたい。
開かれた 学校づくり	学校園所連携推進を積極的に進め、地域の課題に協働体制で取り組む。	・コロナ禍において、三田型コミュニティスクールの活動は、十分とは言えないが、PTAを中心とした学校支援ボランティアの取り組みは実施できた。	・地域とともに歩む学校づくりを、地域と一体となり進める。そのために、地域コーディネーターと職員による校内のコーディネーターの連携を、早急に進めなければならない。	・学校と地域が本音で語り合うことが、生徒の成長にとって大きな力になる。コミュニティスクールの取り組みが、ますます重要になってくる。そこを充実させることが、学校支援ボランティアの拡充にもつながると思う。
	教育活動の公開や学校ホームページの更新など、積極的な情報発信を行い、信頼される学校づくりを推進する。	・「生徒アンケート」「保護者アンケート」ともに、開かれた学校づくりについて肯定的評価の割合が高かった。	・学校ホームページの充実を図り、引き続きタイムリーな情報発信を積極的に行っていく。	・思うように参観できない中、ホームページやたより等で学校の様子を丁寧に発信されていてよい。今後も、そのときに求められている情報を精査して、機を逃さず発信してもらいたい。